

モルドバ独立 20 年祭・帰国報告ツアー

国際ボランティア活動写真展・原画展
 ニューエイジアンオーケストラ「天河」出演
 モルドバ帰国報告・ラテン音楽ピアノライブ
 モルドバ復興支援協会とWAVOC共催



WAVOC: 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンターの略称

はばたく



だに・鳥・蛙・鶏・あひる・山羊・豚・わに

武田有賀
 ピアノ演奏 絵画
 神戸女学院大学卒業後、ドイツ、スペインへ留学。
 当地では 編曲、演奏活動を行う。帰国後、松方ホール音楽賞大賞受賞。
 現在、ラテン、国民楽派の音楽を主に演奏している。
 編曲家、山本京子の編曲協力、ピアノデュオ“ムムキ”で活動中。
 近年はキルギス芸術文化祭、モルドバ独立記念祭等に参加、音楽と絵画の分野で活動している。

今回のピアノ演奏と絵は武田有賀さんによる。ラテン音楽が専門である武田さんのアレンジによる、モルドバ音楽や「火祭りの踊り」等の演奏を楽しんで下さい。

展示内容 写真約 20 点。会報「モルドバドキュメンタリー2011」の表紙絵原画 約 20 点

報告者 川村容子
 早稲田大学大学院教育学修士課程の時にモルドバの「子どもデイケアセンター」で日本語を教える。モルドバでの活動と詩を通じた民族意識に関する研究が評価され、学生支援機構から奨学金全額返済免除を受け、その資金を元に、2009年モルドバで奨学金制度「さくらこ基金」設立。現在同大学院教育学研究科博士後期課程。2009~2011年ルーマニア・Alexandru Ioan Cuza 国立大学に留学。

「New Asian Orchestra (ニューエイジアンオーケストラ) 「天河」~TENGA~」

作曲家・和太鼓奏者 井上英樹を中心に、第一線で活躍する若手邦楽演奏家を集め2001年に結成。今年10周年を迎え、新しいアジアの音をコンセプトに「癒しと励まし」「平和への祈り」をテーマに音楽を紡ぎ出し、世界の舞台を目指すプロの音楽集団。
 2006年、群馬県に「天河」スタジオを開設。和太鼓の稽古と自作曲のレコーディングなどを行なう。全国各地で公演の他、ロシア、フランスでも公演。特に海外では高い評価を受ける。TV=CMに出演、作曲も担当。テレビ朝日「生きる×2」テーマ曲を担当。テレビ朝日「感動新年ニッポン百景」で書道家武田双雲氏と共演。その他にも番組中BGMとして井上の楽曲が使用される。全国のよさこい系ダンス曲の作曲なども手がけている。今回は、New Asian Orchestra「天河」~TENGA~の選抜メンバーとして、和太鼓、横笛、ヴァイオリンの三人編成をご用意しました。

井上英樹
 大分県別府市出身。「天河」主宰/作曲家/和太鼓奏者。
 武蔵野音楽大学で作曲、パークリー音楽院で音楽プロデュースとレコーディングを学ぶ。留学経験を通して、自身のルーツとなる音楽を探し求め帰国。和太鼓と運命的に出会い、和太鼓奏者となる。2001年「天河」を組織。全国各地で演奏や作曲、またイベントプロデュース等に活躍中。テレビ朝日から全国放送されたドキュメント番組「生きる×2」のテーマ曲を担当。同局「感動新年日本百景」に生出演。その他にも番組中BGMとして井上の楽曲が使用される。全国のよさこい系ダンス曲の作曲なども手がけている。

山田路子
 千葉県出身。高校時より能楽師一噌流笛方一噌幸弘氏に師事。プロ活動と同時に「天河」主要メンバーとして参加。これまでに海外公演の他、川中美幸明治座公演への参加、テレビ出演など、多方面で活躍。和笛&和太鼓ユニット「打花打火」のリーダーとしても活躍。

栴沢かずみ
 群馬県出身。沖縄県立芸術大学音楽学専攻(ヴァイオリン)卒業。沖縄県立芸術大学大学院修士・演奏芸術専攻音楽芸術学科卒業。

チェルノブイリ原発25周年を機に振り返るモルドバ共和国の農村の子供たち—カザネシュティ村の子供デイケアセンターの現状と将来への展望—

【帰国報告概要】モルドバ共和国は、1991年にソヴィエト連邦の崩壊と共に独立した新興国家の一つであり、今年には独立20周年という節目の年を迎えている。同共和国は、1986年に起こった隣国ウクライナのチェルノブイリ原発事故で大きな被害を受け、現在でも被爆の爪痕が残っている。独立後は、民主化への移行により、ソ連の統制経済の枠組みの外に置かれることになったことから、経済混乱に陥った。コルホーズは解体され、農場や工場は建物を残し機材・人材はモスクワに引き上げられた。職を失った親の多くは子どもをモルドバに残し、国外へ出稼ぎに行かざるをえない状況となった。さらには人身売買・臓器売買の問題までも浮上した。他方、モルドバの特徴は高い教育水準にある。アジア・アフリカとは異なり、モルドバを含む旧ソ連圏諸国の識字率の高さは100%に近く、教育制度は整備されている。しかし特に農村部において子どもが不登校になるケースが多い。これには、貧困による親の国外出稼ぎが深く関与している。そのような中、現地からの要請により、1997年、神戸にモルドバ復興支援協会は設立された。その目的は、モルドバ共和国の精神文化と経済を復興させることであり、モルドバ政府が実施したくても経済的事情から実現できないような分野を支援している。具体的には、現地の事情を熟知している知識人が支援プロジェクトを立案し、それをもとに協議を重ね、実現可能なものから順次プロジェクトを立ち上げている。本報告ではチェルノブイリの被災状況について簡単に触れた後、カザネシュティ村において復興支援協会が支援を試みてきた子供たちの成長の様子と今後の見通しを紹介する。

問合せ:モルドバ復興支援協会 沓澤 (090-1223-1640) molkorjp@ybb.ne.jp

会場:早稲田大学大隈記念講堂(地下1階)小講堂
 〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1

交通アクセス:

- 高田馬場駅より早大正門行きバス 終点「早大正門」下車 徒歩0分
- 地下鉄東西線早稲田駅より 徒歩7分
- 都電 早稲田駅より 徒歩5分

入場無料予約不要です



平成23年9月10日(土)16:00~19:00(開場15:30)
 会場:早稲田大学大隈講堂小講堂